

右腸腰筋膿瘍を合併した同時性重複癌 (上行結腸癌, 胃癌) の1例

なが み はる ひこ¹⁾ た なか つね お²⁾ おお もり ひろ し³⁾
 長 見 晴 彦¹⁾ 田 中 恒 夫²⁾ 大 森 浩 志³⁾
 こ いけ まこと³⁾ さ とう よし とし³⁾ の さか せい し⁴⁾
 小 池 誠³⁾ 佐 藤 仁 俊³⁾ 野 坂 誠 士⁴⁾
 にし たけし せい じ²⁾ まる やま りる け⁵⁾
 西 健²⁾ 矢 野 誠 司²⁾ 丸 山 理留敬⁵⁾

キーワード：右腸腰筋膿瘍，同時性重複癌（大腸癌，胃癌）

要 旨

今回、我々は同時性重複癌に合併した右腸腰筋膿瘍の1例を経験した。症例は74歳の男性で、右坐骨神経痛，psoas sign，発熱を主訴に来院し腹部エコー，CT検査にて右腸腰筋膿瘍と診断した。本症例に対して直ちに後腹膜アプローチにて膿瘍ドレナージ術を施行した。その後の精査にて本症例は同時性重複癌（上行結腸癌，胃癌）を合併しており，全身状態安定後に右半結腸切除術，幽門側胃切除術を施行した。自験例では術中所見として上行結腸癌と，腸腰筋膿瘍間に穿通孔を認めず，bacterial translocationあるいは同時性重複癌に伴う宿主免疫能低下により本疾患が発症したと推測された。同時性重複癌に合併した腸腰筋膿瘍の本邦報告例は文献上皆無である。今後，大腸癌の増加に伴い本疾患の発生も増加する可能性もあることから腸腰筋膿瘍と大腸癌の関連を念頭におく必要がある。

はじめに

腸腰筋膿瘍は抗菌剤の発達した今日では比較的まれな疾患となっている。しかし，本疾患は診断，治療がひとたび遅れれば重症化しやすく，治

療に難渋する¹⁾。一方，続発性腸腰筋膿瘍の原因としては近接臓器の炎症波及例が多く，消化器疾患，脊椎炎，腎盂腎炎などが挙げられる²⁾。この中で悪性腫瘍に伴う腸腰筋膿瘍の報告はまれであり，中でも同時性重複癌を合併した腸腰筋膿瘍症例は文献上本邦，欧米とも報告例はない。今回，我々は同時性重複癌（胃癌，大腸癌）を合併した右腸腰筋膿瘍の1例を経験したので文献的考察を加え報告する。

Haruhiko NAGAMI et al.

- 1) 長見クリニック
- 2) 島根大学医学部消化器総合外科
- 3) 松江赤十字病院外科
- 4) 岩国みなみ病院外科
- 5) 島根大学附属病院病理部

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1